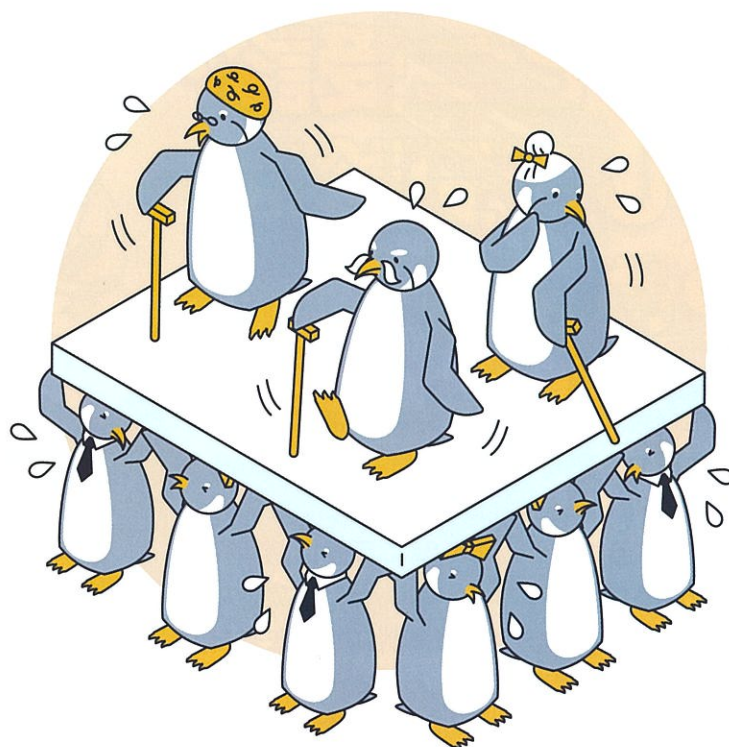


厳しい健保財政のカギを握るのは皆さんの健康です。

健康保険の現状を知る

今や65歳以上の高齢者の医療費は国民医療費の約6割※を占め、健康保険組合は高齢者の医療費のために、わたしたちが納めた保険料の約半分を国に納めています。団塊の世代が後期高齢者となり、今後も高齢者医療のための拠出金の増加で健康保険組合の財政が厳しくなることが見込まれます。もちろん現役世代の皆さんの負担も増加します。拠出金は健康保険組合の力で削減できません。皆様のご協力をお願いします。

※厚生労働省「2021年度 国民医療費の概況」より



健保組合は拠出金の増加で存続の危機

■ 高齢者拠出金(概算額)の動向



※健康保険組合連合会「令和6年度 健康保険組合 予算編成状況-早期集計結果(概要)」より作成

※加入者数と標準報酬総額(令和6年度概算額ベース)を固定したごく粗い試算

健康でいることが健保にとっても一番!

わたしたちが病気にならずに健康であれば医療費はかかりません。健康を維持するには特定健診、特定保健指導は必ず受ける、生活習慣(食事、運動、禁煙、飲酒、睡眠)に気を配ることが大切です。また、必要な治療はしっかり受けることも重要です。

医療費の使い方を見直そう!

基本的に、わたしたちは医療機関の窓口で医療費の2~3割を負担していますが、残りの7~8割は健康保険組合が負担しています。余計な医療費が増えれば保険料の引き上げにつながる可能性もあります。

● 適切に医療機関を受診する

コンビニ受診、はしご受診をやめましょう。時間外受診も割増料金がかかります。

P20
参照

● 薬の選択肢を広げる

ジェネリック医薬品に切り替えたり、軽い病気には市販薬を使用してもよいでしょう。

P22
参照

● 接骨院・整骨院に正しくかかる

健康保険組合に請求される療養費の中には、健康保険の対象とならない不適切な請求もあります。

P23
参照

高齢者医療のための拠出金

わたしたちが納めた保険料のうち、健康保険組合の使い道として約半分を占めているのが、高齢者のための拠出金です。健康保険組合は、「前期高齢者納付金」「後期高齢者支援金」の2種類を国に納めています。前期高齢者納付金は、65~74歳の方を対象とした、保険者間で医療費負担の調整を行うための拠出金です。後期高齢者支援金は、75歳以上の方を対象とした、後期高齢者医療制度のための拠出金です。この制度の財源は後期高齢者医療制度の被保険者1割、公費(国や市町村)5割、残りの4割をわたしたち現役世代からの保険料で負担しています。